

次世代ネットワークの接続料算定等に関する研究会(第6回) 議事要旨

1. 日 時：平成20年10月7日(火) 10:00~12:00

2. 場 所：総務省低層棟1階 共用第4会議室

3. 参加者

(1) 構成員

：東海座長、酒井座長代理、相田構成員、伊藤構成員、
関口構成員、佐藤構成員

(2) 総務省

：武内電気通信事業部長、
古市料金サービス課長、村松料金サービス課企画官、
飯村料金サービス課課長補佐、岡本同課長補佐

(3) オブザーバ

：東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社、KDDI株式会社、
ソフトバンクテレコム株式会社、イー・アクセス株式会社、
社団法人テレコムサービス協会

4. 議題

(1) NTT東日本及びNTT西日本からの報告

(2) 主要論点の整理

(3) その他

5. 議事要旨

<現状報告>

- NTT東西のプレゼン資料を用いた説明。
- 事務局より、プレゼン資料を用いて説明。

<質疑応答>

- 質疑応答における主な発言は以下のとおり。

- ・ NTT資料P12について、ポート容量比の場合は、設備別費用が出れば、機能別費用の把握ができるので、サービス別の把握は必要ないという理解で良いか。
- ・ (事務局)接続料算定という観点では網機能単位にコストが集約できれば良いので、不可欠ではない。ただし、事業会計上は収支を比較して、料金設定の適正性を判断する観点でサービス別の把握が必要となる。
- ・ 通り抜けたパケットの総量は簡単に把握できると思うが、優先クラスごとのパケットの量を把握するのはどれくらい難しいのか。もう1点、NTT資料P13で、ポート帯域が10M、

100M、1Gとあるが、この関数上に10Gも乗るのか。

- ・ (NTT東西) 1点目のパケット量の把握については、総量は取れると思うが、優先クラス毎に取ることは難しい。また、SIPではQoS通信に係る通信回数と時間は把握できるが、ベストエフォートまで含めての把握はできない。2点目の10Gについては手持ちのデータがないが、以前より下がってきていると思う。
- ・ 想定トラヒック比案の場合のベストエフォート通信への帯域の割り当ては、QoSの割り当て分を先に決めた後の残りとする考えか。
- ・ (NTT東西) ベストエフォートの使用帯域をQoSの使用帯域以外全てとすると、ベストエフォートにコストが寄りすぎると考えられることから、ベストエフォートについても通信あたりの使用帯域を想定して、コスト配賦を行う方がベターと考えている。
- ・ (テレサ協) 同じQoS制御で、音声とデータについて、前者は時間課金で、後者はポート課金と、価格設定の仕方を異なる整理としている理由は何か。
- ・ (NTT東西) IGS接続は、「セットアップ+秒課金」という既存の仕組みを踏襲したいと考えている。一方、それ以外のQoSはIP-IPで接続するので、通信時間に着目するとお互い課金装置が必要となり、IPの世界では現実的ではないので、ポート単位などの定額制を考えているところ。
- ・ (ソフトバンク) キャパシティコストは、QoSを反映しにくく、アクティビティコストは反映しやすいとあるが、必ずしも言い切れないと思う。QoSが効かない場合には、速度が落ちるなど、効用差を取り入れるなどの手法もあり得るのではないか。
- ・ (NTT東西) 中継局接続事業者が使用しているGWルータ経由のトラヒックをQoSクラス別に把握はできないので、中継局接続機能へのコストリングは想定トラヒックで行ったとしても、プライシング時の接続料の設定単位はポートを用いざるをえないのではないか。
- ・ NTT資料P16において、中継局接続のGWルータは接続事業者の個別負担とすることが適当とあるが、GWルータは接続事業者ごとに設けるのか。
- ・ (NTT東西) GWルータのポートは複数あるので、1台のGWルータを複数事業者で使うことも可能である。現時点、具体的な要望がないのでどこで接続したいのかわからないが、現在オープンにしている東西各2箇所以外で接続する場合は、そのGWルータは、その事業者のためだけに設置するものであることから、網改造料として個別にご負担いただく考え。
- ・ 帯域比とポート比、どちらの案がドライバとして合理性が高いと考えているか。また、今と3年後では、また変わってくるのか。
- ・ どちらも案も合理性はあるのだろうが、原価算定なので、コストの回収問題と結びつけて考えていく必要がある。
- ・ コスティングで、どちらのドライバを選ぶかによって、プライシングの体系は違ったものになるのか。

- ・ (NTT東西) 接続料の水準は、配賦の方法が変われば結果は違ったものになると想定される。なお、接続料の設定単位については、コストに用いるドライバとプライシング時の単位は必ずしも一致しないので、接続料体系は必ずしも変わることはないと思う。例えば、ポート容量でIGS接続機能のコストを把握し、回数・時間単位で接続料を設定するといったことはあり得る。
- ・ (イー・アクセス) 帯域比とポート比について、QoSがコストに反映出来る点を評価しているのだから、帯域比の方が良いのかなと思う。また、帯域比は、サービス毎にコストを分けることが出来るため、料金の適正性を検証できる観点でも適していると思う。
- ・ サービス別コストの把握のステップがある分だけ、事後的に料金の適正性の検証がやりやすいということはあるだろう。QoSについてはパターンを想定するなど、何か考えられないか。
- ・ (ソフトバンク) QoSについては、コストに差を設けないとすると、一部の事業者がQoS優先クラスの通信を大量に流すなど、QoSの仕組み自体が機能しなくなるおそれがある。
- ・ (NTT東西) そのためにも、どの通信を最優先とし、どの通信を高優先とするかについて、事業者間の協議が必要ではないか。全てを最優先とするのは現実的ではない。
- ・ (イー・アクセス) 事務局資料P5、「1. 收容ルータ」のコストはみな、收容局接続機能に入るのか。2点目、地上デジタルIP再送信はQoSなので、SIPを使っているのではないか。
- ・ (NTT東西) 收容局接続を選択した事業者については、その事業者専用のルータを設置するため、その費用は個別負担して頂きたいことから、收容局接続機能に全てコストを寄せている。当社の利用部門についても扱いは同じである。地上デジタルIP再送信については、パケットの扱いとしては高優先だが、SIPサーバは使っていない。
- ・ (イー・アクセス) 收容ルータのコストについて、多数のサービスで利用しているなら、サービスごとに配賦をしないのか？
- ・ (NTT東西) 今回の資料では、設備別費用をアンバンドル機能へ帰属させる際の考え方を述べているだけで、利用部門がそのコストをサービス別にどう配賦するかまでは述べているものではない。
- ・ NTTは、利用部門をビル&キープにすると、利用部門は網使用料を払わないことになるのか。
- ・ (NTT東西) 設備コストを利用部門が負担しないという訳ではない。振替網使用料や総額取引方式などでコストを特定して付け替えるなど、内部取引は整理する。
- ・ ビル&キープは、エンドエンド料金設定で接続料が0円ということなのか、エンドエンド料金設定しないということなのか。
- ・ (NTT東西) ビル&キープは自社のユーザ料金でコストを回収するという考え方であるが、ビル&キープにしたからといって、お客様から見てエンドエンド料金になっていない、ということはないと思う。

- ・ (KDDI)ビル&キープについては、考え方を整理出来れば、将来的な可能性を否定するものではないが、トラフィックがどうなるか分からない段階で、接続料を作らずに導入してしまうと、運用上恣意的になる懸念がある。会計との関係もあるので、透明性確保の意味で接続料は作るべき。
- ・ ビル&キープ方式であっても、利用部門に対して振替網使用料を算定するというのであれば、接続料は算定できるのではないか。外部取引がないのに、内部取引だけ作るのは本末転倒ではないか。
- ・ (NTT東西)利用部門に振り替えるコストについては、色々なコストがあるので、個別のコストだけを取り出して、振替網使用料を作るのではなく、複数のサービスのコストをまとめて算定するという考え方もありうると考えている。
- ・ ビル&キープは、現行の基本であるコスト+適正利潤の考え方と大きく隔たりがある。他事業者も受け入れられるものにしなければならないし、まだNGN自体、いくつかの機能が隠れて見えない状態の中で、新しい方式を適用するのは厄介である。今後も継続して議論することが大事。
- ・ 逆ざや問題について気になっている。逆ざやがあることで、ユーザ料金やコストに対してどういう影響があるのか。整理をして欲しい。
- ・ 高い接続料を要求している事業者には、3分10円よりもっと高いユーザ料金を設定できるだろうし、接続料だけの問題ではないだろう。
- ・ イーサネット接続について、バルク型の料金というのはどういうものか、具体的にわかりやすく整理をして欲しい。
- ・ (KDDI)イーサネットについて、懸念として、バルク型料金については、大規模な事業者ほど有利に働くという点があるので、その点は検討に当たってご配慮頂きたい。
- ・ (ソフトバンク)データがない項目が多く、ユーザ料金の根拠にも疑問を感じる。ユーザ料金の根拠の概要を説明してもらうのが接続料金の理解にも役立つと思う。
- ・ (NTT東西)基本的には地域IP網やフレッツと同じ料金体系としているが、今回はユーザ料金について議論する場ではないと認識している。
- ・ 宿題の点も含め、次回は報告書の骨子案について議論して頂きたい。

<その他>

- 追加質問については事務局まで提出願いたい。
- 第7回会合は10月28日(火)開催予定。

(以上)